

J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



新年度が始まり1カ月。仕事が捗らないまま大型連休に突入。このあとに腎臓・透析関連の学会が目白押し。家族サービスはそこそこにして、遅れ気味の仕事を連休中に取り戻そうという先生も多いのではないのでしょうか？それともゴルフ三昧？毎年とはいえ、弱音を吐きそうになってしまいます。さて、今月号のメッセージは、和歌山医科大学の根木茂雄先生からいただきました。

幹事からのメッセージ

「3人の恩師との出会い」

和歌山県立医科大学 腎臓内科
根木 茂雄 先生

私が和歌山県立医科大学を卒業したのは1961年で、3人の先生との出会いが今の仕事(腎臓内科)を続けている根源であると思われる。最初の出会いは阿部富彌(当時の腎センター準備室の教授)先生である。学生の頃、阿部先生のご息子の家庭教師をしていたこともあり、卒業する際に誘われたことが入局するきっかけであった。当時医局員も少なかったことから、阿部先生から直接、手取足取り指導して頂いた。そのお陰で、まがりなりにも人工血管など vascular accessに関しては現在もあまり苦勞せず、執刀できている。また、阿部先生は当時まだ、問題とされていなかったリンの重要性について注目していた。食事におけるリン制限の必要性について指導頂き、リンの重要性を認識したことを覚えている。2人目は阿部先生の後任の秋澤忠男先生である。秋澤先生は当時、透析の領域では誰もが知っているビッグネームで、その先生が和歌山に来られると言うことで、本当にびっくりしたものである。私は大学の関連病院の透析室に勤務しており、秋澤先生が赴任してすぐに希望して、大学に戻してもらった。秋澤先生が来られてから、医局全体でCKD-MBD(特に副甲状腺に関して)関連の研究に力が注がれ、私自身も

CKD-MBDについて基礎から学び、副甲状腺PEITも施行するようになった。また、それまでどちらかという透析と血液浄化を専門としていた私に腎臓内科領域の知識をもたらしてくれたのも秋澤先生であった。最後の出会いは現教授である重松隆先生である。秋澤教授が昭和大学へ戻ることとなったため、腎臓内科・血液浄化センターの教授として重松先生が赴任されることとなった。重松先生も秋澤先生に負けず劣らず透析の世界では有名であった。先の2人の先生との出会いから現在の仕事の基礎はある程度できあがっていたが、重松先生と接することでさらにブラッシュアップすることができたと言える。何事にもエネルギーでどんなことにもへこたれないタフな重松先生の仕事ぶりは私にとって非常に魅力的であった。また、秋澤先生同様重松先生もまた、CKD-MBDのスペシャリストであったこともさらにCKD-MBDの研究に興味を深める所となった。また、仕事以外でも、飲み会(お互いに酒好き)においても他の2人と異なり、最も多くの時間接した。



このように私の現在は、偶然か?必然か?, ひとつの医局に在籍しながら、3人の個性の異なる先生との出会いの結果である。J-DAVID試験も最終コーナーを迎えたといえます。活性型ビタミンDも庄司哲雄先生というすばらしい先生との出会いにより新たな局面を迎えられることを期待したい。

最近の文献から

CKDにおけるビタミンD抵抗性

Vitamin D resistance in chronic kidney disease (CKD)

Parikh A, et al. BMC Nephrol 15:47, 2014

【ポイント】CKD外来受診の352人を対象とした観察コホート研究。血清25(OH)D濃度 > 40 ng/mLになるかどうかを目安に、エルゴカルシフェロール内服週当たり10,000単位で開始(50,000単位まで増量可)し、この値に達するかどうかでレスポナーとノンレスポナーに分けた。ノンレスポナー群は経年的にeGFRが低下したが、レスポナーはeGFRの上昇が認められた。

【詳しくは】<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/24641586>

最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(4月28日現在)

症例報告書回収状況報告

| | 観察開始時 | 3ヶ月目 | 6ヶ月目 | 12ヶ月目 | 18ヶ月目 | 24ヶ月目 | 30ヶ月目 | 36ヶ月目 | 42ヶ月目 | 48ヶ月目 |
|-------------|-------|------------|------------|------------|------------|------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| 前月 | 976 | 932 | 923 | 834 | 796 | 749 | 659 | 470 | 311 | 225 |
| 今月 (前月比) | 976 | 932 (-) | 923 (-) | 834 (-) | 796 (-) | 749 (-) | 670 (+11) | 524 (+54) | 312 (+1) | 234 (+9) |

内容確認書（クエリー）回収状況報告

| | 開始時 | 3ヶ月目 | 6ヶ月目 | 12ヶ月目 | 18ヶ月目 | 24ヶ月目 | 30ヶ月目 | 36ヶ月目 | 42ヶ月目 | 48ヶ月目 | コンプライアンス | 中止時 | 脱落基準 | SAE (イベント含む) | 総数 |
|---------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|------|-------|--------------|------|
| 発行 | 1136 | 772 | 615 | 636 | 599 | 525 | 469 | 262 | 185 | 123 | 1252 | 151 | 23 | 169 | 6917 |
| 回収 | 1136 | 763 | 603 | 621 | 575 | 470 | 365 | 214 | 129 | 83 | 1199 | 143 | 23 | 155 | 6479 |
| 回収率 (%) | 100.0 | 98.8 | 98.0 | 97.6 | 96.0 | 89.5 | 77.8 | 81.7 | 69.7 | 67.5 | 95.8 | 94.7 | 100.0 | 91.7 | 93.7 |



J-DAVIDデータセンターからのお知らせ

イベント評価委員会が開催されました。

第10回イベント評価委員会を4月25日(金)大阪市立大学医学部にて開催いたしました。データセンターに報告された重篤な有害事象(イベント報告含む)のうち73件、中止報告書のうち3件が評価されました。

評価結果に基づき、追加情報や確認が必要なものにつきましては次回以降のクエリー発行日に問い合わせを行いますので、ご協力よろしくお願いいたします。なお、第11回イベント評価委員会は7月に開催される予定です。

36ヶ月観察までの症例報告書をご提出ください

2014年4月4日時点で、全登録症例の36ヶ月までの観察目安日が経過しております。未提出の症例報告書があるご施設様は、早急にご送付くださいますようお願いいたします。2013年7月および12月に、内容確認書の発行をもって未回収症例報告書の提出依頼をいたしております。お手元に残っている場合は速やかにご確認ください。

【再掲】 担当者の異動があればご連絡ください

年度末から年度初めにかけて、J-DAVIDご担当の先生が退職される、あるいは担当を外れる等何らかの異動が発生した場合は、データセンターまでその旨お知らせください。

編集・発行：J-DAVID研究会事務局
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分病態内科学 内
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808
J-DAVID試験データセンター
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

J-DAVIDのホームページ
<http://j-david.info/>